

支部長就任のご挨拶

チャン シューファイ
張 樹槐

(弘前大学農学生命科学部)

1. はじめに

このたび、2027年3月までの2年間、農業食料工学会東北支部の支部長を拝命いたしました弘前大学の張 樹槐です。私にとっては今回が二度目の支部長就任となります。前回の任期中は、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの活動が制限され、十分な支部運営を果たせなかつたという思いが残っております。今回、小出先生より引き継ぎ、改めてこの重責を担うこととなり、支部のさらなる活性化に向けて、微力ながら全力で努めてまいります。

2. これまでの東北支部について

東北支部は、1957年に当時の農業機械学会理事会の満場一致の承認を得て設立されました。以来、歴代支部長、常任幹事、そして会員の皆様のご尽力により、長年にわたり農業機械学および農業食料工学の発展に貢献してまいりました。

特に東北地方は、厳しい気候条件や広大な農地を有しており、それらに適応した農業機械技術の開発が強く求められてきました。これまでの支部活動では、東北地域の特性に合わせた作業機の開発、地域特有の作物に対応した収穫機の改良、さらには農産物の乾燥・加工・貯蔵技術の研究など、幅広い分野で取り組みが進められてきました。これらの成果は、地域農業の発展に大きく寄与しており、まさに歴代の研究者・技術者のたゆまぬ努力の賜物であると改めて敬意を表する次第です。

3. これからの中北支部について

現在、農業機械学分野の研究者や技術者の数が全国的に減少しつつあることが、大きな課題となっています。大学や研究機関においても、農業機械学を専門とする教員・研究者が減少しており、若手の育成が喫緊の課題です。特に地方大学や公的研究機関では、研究費や人材確保の問題も深刻化しており、支部としていかに支援し、研究の継続と発展を支えていくかを考える必要があります。

一方で、近年のスマート農業技術の進展は目覚ましいものがあります。自動運転トラクタ、ドローン、AIを活用した栽培管理システムなど、これまでにない革新的な技術が次々と登場しています。これにより、農業機械学は情報工学やロボット工学、データサイエンスなど、他分野との融合を深めながら新たな発展の段階に入っています。今後、農業食料工学会としても、こうした新しい技術を積極的に取り入れ、学術的基盤の強化とともに、現場への応用を推進していくことが求められます。

ただし、これらの技術革新にはコスト面の課題も伴います。特に東北地方の小規模農家にとって、新技術導入の初期投資は大きな負担となる場合が多く、技術革新と経済的持続性の両立を図ることが重要です。支部としては、各種の研究会や支部活動を通じて、会員間の連携を深め、小規模農家でも導入しやすい低コスト技術や地域適応型技術の開発も一層推進していくことを考えております。

また、東北支部は伝統的に、国や各県の農業機械関連研究機関との協力体制が非常に密接です。今後はこうした連携をさらに強化し、現場の課題に直結した実践的研究や技術開

発を推進していくことが肝要です。農業現場で真に役立つ技術を創出するためには、現場のニーズを的確に把握し、それを研究に反映していく相互連携が非常に大事なことです。国立研究機関、県の農業試験場、民間企業、そして農業者の皆様と一体となって、情報共有や共同研究をさらに活発化させてまいります。

4. おわりに

今後も、農業食料工学の発展に寄与すべく、東北支部の活動をより一層充実させていく所存です。支部会員の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、次世代を担う研究者・技術者の育成にも力を注ぎ、持続可能な農業の実現に向けて取り組みを進めてまいります。

支部長としての任期中、皆様とともにより良い研究環境を築き、東北地域の農業発展に貢献できるよう全力を尽くしてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。